

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 06-276313

(43)Date of publication of application : 30.09.1994

(51)Int.Cl.

H04M 11/00
G08B 5/36
H04M 1/274
H04M 1/57
H04N 1/00
H04N 1/32

(21)Application number : 05-065152

(71)Applicant : RICOH CO LTD

(22)Date of filing : 24.03.1993

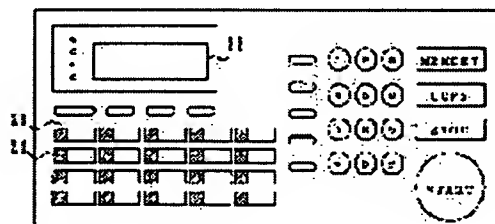
(72)Inventor : OUE YUJI

(54) FACSIMILE EQUIPMENT AND ITS RECEPTION METHOD

(57)Abstract:

PURPOSE: To easily arrange received originals in the unit of reception and to easily confirm whether or not an original whose reception is awaited by lighting an LED of an abbreviation one operation key corresponding to a received telephone number.

CONSTITUTION: A sender side telephone number is extracted from a caller identification signal in a communication protocol at a point of time when the reception is finished. Then whether or not the telephone number is coincident with a telephone number registered in an abbreviation one operation key is confirmed. When coincident, an LED 24 of an abbreviation one operation key 23 whose telephone number is coincident is lighted as a processing operation to inform the presence of a received original. Then whether or not the lighted key 23 is depressed is checked and when depressed, the lighted LED 24 goes off as the processing for stopping the operation of notifying the presence of the received original.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

07.01.2000

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

3261678

[Date of registration] 21.12.2001

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-276313

(43)公開日 平成6年(1994)9月30日

| (51)Int.Cl. ⁵ | 識別記号 | 庁内整理番号 | F I | 技術表示箇所 |
|--------------------------|---------|---------|-----|--------|
| H 0 4 M 11/00 | 3 0 3 | 7470-5K | | |
| G 0 8 B 5/36 | J | 4234-5G | | |
| H 0 4 M 1/274 | | 7190-5K | | |
| 1/57 | | 7190-5K | | |
| H 0 4 N 1/00 | 1 0 4 B | 7046-5C | | |

審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 11 頁) 最終頁に続く

(21)出願番号 特願平5-65152

(22)出願日 平成5年(1993)3月24日

(71)出願人 000006747

株式会社リコー

東京都大田区中馬込1丁目3番6号

(72)発明者 大植 裕司

東京都大田区中馬込1丁目3番6号 株式

会社リコー内

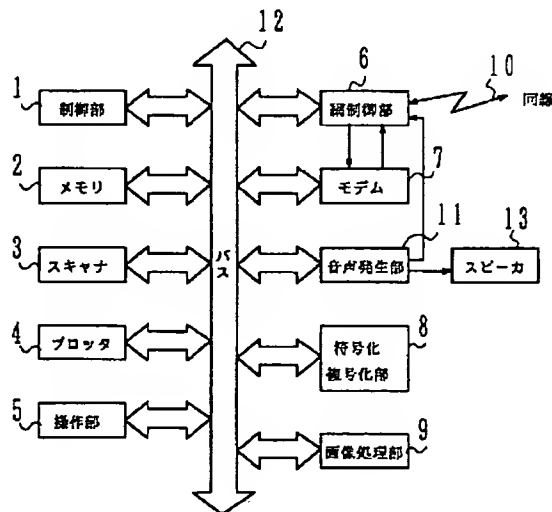
(74)代理人 弁理士 磯村 雅俊

(54)【発明の名称】 ファクシミリ装置およびその受信方法

(57)【要約】

【目的】 ファクシミリ装置の設置場所に行って、複数回自動受信した受信原稿の宛先を1枚1枚見て確認することなく、受信単位毎に容易に整理することができ、また受信待ちしている受信原稿が受信されたか否かを容易に確認することができるようにする。

【構成】 自動受信が終了した場合に、その通信プロトコル中のCSI信号から送信相手側の電話番号を読み出し、短縮・ワンタッチキーの既に登録されている電話番号のいずれかと一致したとき、その短縮・ワンタッチキーのLED点灯部を点灯させる。点灯したキーが押下されると、そのLEDを消灯する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 複数の利用者が共用する自動受信機能を備えたファクシミリ装置において、自動受信動作が終了した時点で、その通信プロトコル中の発呼者識別信号から送信相手側の電話番号を読み出し、操作部の短縮・ワンタッチキーで登録されている利用者の電話番号のいずれかと一致するか否かを調べ、一致する場合には、一致する短縮・ワンタッチキーに具備されたLED点灯部を点灯させた後、点灯している短縮・ワンタッチキーが押下された場合には、該短縮・ワンタッチキーのLED点灯部を消灯させることを特徴とするファクシミリ装置の受信方法。

【請求項2】 請求項1に記載のファクシミリ装置の受信方法において、上記短縮・ワンタッチキーのLED点灯部を点灯させる場合、既に該LEDが点灯しているときには、同一の短縮・ワンタッチキーの電話番号の相手からの点灯中の受信回数を計数して、該受信回数の数だけ点滅点灯させた後、点灯している短縮・ワンタッチキーが押下された場合には、上記受信回数から押下された分を差し引き、該差し引いた数だけ点滅点灯させることを特徴とするファクシミリ装置の受信方法。

【請求項3】 請求項1に記載のファクシミリ装置の受信方法において、上記短縮・ワンタッチキーのLED点灯部を点灯させる場合、該点灯に追加して、送信側電話番号と一致した短縮・ワンタッチキーに対応して予め登録された音声スピーカーから発声させた後、点灯している短縮・ワンタッチキーが押下されたときには、上記音声の発声を止めることを特徴とするファクシミリ装置の受信方法。

【請求項4】 請求項1に記載のファクシミリ装置の受信方法において、上記短縮・ワンタッチキーのLED点灯部を点灯させる場合、該点灯に追加して、送信側電話番号と一致した短縮・ワンタッチキーに対応して予め登録された利用者の電話番号に網制御部から発呼し、呼が接続された後に該電話番号に対応して登録されている音声を送信させ、点灯している上記短縮・ワンタッチキーが押下されたときには、上記短縮・ワンタッチキーのLED点灯部を消灯させることを特徴とするファクシミリ装置の受信方法。

【請求項5】 複数の利用者が共用する自動受信機能を備えたファクシミリ装置において、LED点灯部を備えた短縮・ワンタッチキーと、通信プロトコル中の発呼者識別信号から送信相手側の電話番号を読み出し、上記短縮・ワンタッチキーの既に登録されている電話番号と一致するときに、該短縮・ワンタッチキーのLEDを点灯させる処理モジュールと、該LEDが点灯している間、同一相手からの重複受信回数を計数して、計数された回数分だけ点滅点灯させる処理モジュールと、該短縮・ワンタッチキーに対応して登録されている音声を発生させる手段と、点灯したLEDの短縮・ワンタッチキーに対

応して登録されている利用者の電話番号に網制御部から発呼して、登録された上記音声を送信する処理モジュールとを有することを特徴とするファクシミリ装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、ファクシミリ装置で自動受信した原稿を表示、整理、および報知する方法、およびそのための自動受信機能および短縮、ワンタッチキー機能を備えたファクシミリ装置に関する。

【0002】

【従来の技術】 従来、ファクシミリ装置で自動受信した場合、受信原稿の表示、整理および受信したことの報知の方法としては、次のようなものがあった。

(a) 受信中に、操作部の液晶パネルに送信相手機の電話番号を表示させる方法があるが、この場合、受信が終了した時点でその表示はクリアされる（従来のファクシミリ装置）。

(b) 通信毎に、受信原稿を自動的に綴合させる方法がある。例えば、実開平3-36255号公報に記載のファクシミリにおける受信原稿整理装置では、受信済稿を受信原稿トレイ上で通信毎に自動的に綴合せて、整理を容易にしている。

(c) 通信毎に、受信原稿の電話番号または個別マークを印刷させる方法がある。例えば、実開昭62-10559号公報に記載の受信記録識別機能付ファクシミリ装置では、長尺の記録紙の先頭に相手装置の加入者番号を含む情報を印字して出力するとともに、1通信毎に記録紙の側面に異なるマークを印刷している。

(d) 自動受信後に、別場所の電話機を呼び出す方法がある。例えば、実開平2-98547号公報に記載のファクシミリ装置では、受信原稿検出器により受信原稿が検出されると、登録されている電話番号を読み出してその電話番号を自動発呼し通知する。

(e) 受信原稿に記録されている電話番号を読み取って電話で通知する方法がある。例えば、特開平1-86671号公報に記載の受信連絡機能付きファクシミリ装置では、その宛先番号に該当する電話番号に自動的に電話をして、自動的に音声によりファクシミリ受信を受取人に連絡することにより、受信記録を確実に受取人に通知する。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 しかしながら、上記各方法では、それぞれ次のような問題が生じていた。

(a) 受信中に、操作部の液晶パネルに送信相手機の電話番号を表示させる方法では、複数の自動受信が行われた後のファクシミリ装置は、図12に示すように、受信原稿トレイ20上に受信原稿19が送信宛先や受信単位の違いにかかわらず、積み重なった状態となるため、それを受信単位毎に受信原稿を整理するには、手にとって1枚ずつ受信原稿を見て区分けする必要があるため、極

めて不便である。また、受信待ちをしている受信原稿が受信したか否かは直ちに判別できないため、受信原稿全部を手にとって1枚ずつ見て確認する必要があるため、極めて不便である。さらに、何通の受信原稿が受信原稿トレ-20上に存在するかは判別できないため、受信原稿全部を手にとって、1枚ずつ受信原稿を見て確認する必要があるため、極めて不便である。なお、図12において、5はファクシミリ装置前面の操作部、15は送信原稿、16は原稿読み取りのためのCCD、17は受信原稿を記録するサーマルヘッド、18は長尺記録紙を切断するカッター、19は受信原稿、20は受信原稿トレ-である。

(b) 通信毎に受信原稿を自動的に綴合させる方法では、受信待ちをしている受信原稿が受信したか否かは判別できないので、受信原稿全部を手にとって受信原稿を見て確認する必要があるため、極めて不便である。また、何通の受信原稿が受信原稿トレ-20上に存在するか不明であるため、受信原稿全部を手にとって受信原稿を見て確認する必要があるため、極めて不便である。

【0004】(c) 通信毎に受信原稿の電話番号または個別マークを印刷する方法では、前と同じように、受信待ちをしている受信原稿が受信したか否かが判別できないので、受信原稿全部を手にとって受信原稿を見て確認する必要があるため、極めて不便である。また、何通の受信原稿が受信原稿トレ-20上に存在するかは判別できないため、受信原稿全部を手にとって受信原稿を見て確認する必要があるため、極めて不便である。

(d) 自動受信後に別の場所の電話機呼び出しを行う方法では、自動受信があったことの報知動作が、受信原稿の送信宛先・送信元にかかわらず一定の動作で行われるため、報知された受信原稿が受信待ちをしているものか判別できず、ファクシミリ装置の場所まで行って確認する必要があるため、極めて不便である。また、報知する動作が受信待ちをしている受信原稿か否かにかかわらず行われるので、仕事の妨げとなる。

(e) 受信原稿に記録された電話番号を読み取り、電話で通知する方法では、受信原稿に記録された電話番号を読み取る仕様は、ファクシミリ通信規格に無い特定の機能であるため、その機能を持つ特定の装置のみでしか実現できない。また、受信原稿に記録された電話番号を読み取る機能はコストがかかるため、装置の価格が高くなる。

本発明の目的は、これら従来の課題を解決し、受信原稿を受信単位毎に容易に整理することができ、かつファクシミリ装置の設置場所に行かなくても確認することができ、受信原稿の通数を簡単に確認することができ、受信待ちしている受信原稿が受信されたか否かを簡単に確認でき、受信待ちの手間と時間がかからず他の仕事を続けられるファクシミリ装置およびその受信方法を提供することにある。

【0005】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するため、本発明のファクシミリ装置の受信方法は、(イ)複数の利用者が共用する自動受信機能を備えたファクシミリ装置において、自動受信動作が終了した時点で、その通信プロトコル中の発呼者識別信号から送信相手側の電話番号を読み出し、操作部の短縮・ワンタッチキーで登録されている利用者の電話番号のいずれかと一致するか否かを調べ、一致する場合には、一致する短縮・ワンタッチキーに具備されたLED点灯部を点灯させた後、点灯している短縮・ワンタッチキーが押下された場合には、短縮・ワンタッチキーのLED点灯部を消灯させることを特徴としている。また、(ロ)短縮・ワンタッチキーのLED点灯部を点灯させる場合、既に該LEDが点灯しているときには、同一の短縮・ワンタッチキーの電話番号の相手からの点灯中の受信回数を計数して、受信回数の数だけ点滅点灯させた後、点灯している短縮・ワンタッチキーが押下された場合には、受信回数から押下された分を差し引き、差し引いた数だけ点滅点灯させることも特徴としている。また、(ハ)短縮・ワンタッチキーのLED点灯部を点灯させる場合、点灯に追加して、送信側電話番号と一致した短縮・ワンタッチキーに対応して予め登録された音声スピーカーから発声させた後、点灯している短縮・ワンタッチキーが押下されたときには、音声の発声を止めることも特徴としている。また、(ニ)短縮・ワンタッチキーのLED点灯部を点灯させる場合、点灯に追加して、送信側電話番号と一致した短縮・ワンタッチキーに対応して予め登録された利用者の電話番号に網制御部から発呼し、呼が接続された後に該電話番号に対応して登録されている音声を送信させ、点灯している上記短縮・ワンタッチキーが押下されたときには、短縮・ワンタッチキーのLED点灯部を消灯させることも特徴としている。さらに、本発明のファクシミリ装置は、(ホ)複数の利用者が共用する自動受信機能を備えたファクシミリ装置において、LED点灯部を備えた短縮・ワンタッチキーと、通信プロトコル中の発呼者識別信号から送信相手側の電話番号を読み出し、短縮・ワンタッチキーの既に登録されている電話番号と一致するときに、短縮・ワンタッチキーのLEDを点灯させる処理モジュールと、LEDが点灯している間、同一相手からの重複受信回数を計数して、計数された回数分だけ点滅点灯させる処理モジュールと、短縮・ワンタッチキーに対応して登録されている音声を発生させる手段と、点灯したLEDの短縮・ワンタッチキーに対応して登録されている利用者の電話番号に網制御部から発呼して、登録された音声を送信する処理モジュールとを有することを特徴としている。

【0006】

【作用】本発明においては、受信原稿トレ-上に複数の受信原稿が送信宛先が混入された状態で積み重ねられて

いる場合でも、受信した電話番号に対応する短縮・ワンタッチキーのLEDに点灯するので、そのキーを押下することにより、共用利用者の電話機が呼び出されてオペレータにより受信原稿の受信が通知される。また、受信単位毎に受信原稿の整理が可能である。また、LEDの点灯に追加して、点灯している間中の同一相手からの原稿受信の回数を計数し、その回数だけLEDを点滅させるので、受信回数を確認することができ、受信原稿の整理が容易となる。また、LEDの点灯に追加して、その短縮・ワンタッチキーに対応して登録された音声スピーカーから発声するので、音声聞き取れる場所にいれば、直ちに原稿の受信を確認することができる。さらに、LEDの点灯に追加して、その短縮・ワンタッチキーに対応して登録された共用利用者の電話番号に発呼するので、連絡先電話番号の電話機の場所にいれば、直ちに原稿の受信を確認することができる。

【0007】

【実施例】以下、本発明の実施例を、図面により詳細に説明する。図1は、本発明の一実施例を示すファクシミリ装置のブロック図である。本実施例のファクシミリ装置は、図1に示すように、装置全体を制御する制御部1、制御のためのプログラムや制御に必要な種々のデータ等を記憶するメモリ2、原稿読み取りを行うスキャナ3、コピーおよび受信原稿出力を行うプロッター4、オペレータによる操作を入力するとともに、情報をオペレータに伝達する操作部5、相手ファクシミリ装置との間でファクシミリ制御信号を交換して、ファクシミリ通信手順を実行し、回線10の制御を行う網制御部6、送信信号の変調や受信信号の復調を行うモデム7、画情報を所定の符号化方式に従って符号化し、また符号化された画情報を復号化する符号化・復号化部8、読み取った画情報の処理を行う画像処理部9、および音声発生部11から構成されており、これらの各装置はバス12を介して接続されている。なお、音声発生部11には、生成された音声を実際に出力させるスピーカ13が接続されている。本実施例においては、操作部5にLED点灯部が備えられた短縮・ワンタッチキーを設け、自動受信動作が終了したとき、その通信プロトコル中のCSI信号から送信相手側の電話番号を読み出し、短縮・ワンタッチキーの登録されている電話番号のいずれかと一致するか否かを調べて、一致する場合には、短縮・ワンタッチキーのLED点灯部を点灯させる。オペレータはこれを見て、点灯されたLEDのワンタッチまたは短縮キーを押下することにより、連絡先の電話番号を呼び出し、受信原稿があることを通知できる。

【0008】図2は、図1における操作部の前面の正面図である。操作部5には、その右側にテンキーと機能キー（メモリ、コピー、ストップ、スタート）が配置されるとともに、左側には、液晶パネル22、短縮・ワンタッチキー23が配置される。短縮・ワンタッチキー23

には、LED点灯部24が備えられている。図3は、本発明の一実施例を示す受信動作のフローチャートである。まず、動作が終了した時に、その動作が受信動作であったか否かを確認し、受信動作であった場合には（ステップ30）、その受信動作プロトコル中の送信相手側から送られたCSI信号より送信側の電話番号を取り出す（ステップ31）。次に、その電話番号が短縮・ワンタッチキーに登録されているものと一致するか否かを確認する（ステップ32）。一致する場合には、以下に記述する4つの例の受信原稿があることを知らせる動作を行う（ステップ33）。次に、点灯している短縮・ワンタッチキーが押下されたか否かをチェックし（ステップ34）、押下された場合には、4つの例の受信原稿があることを通知する動作を停止する（ステップ35）。そして、動作開始のトリガーがあるまで、その他の待機処理を行い（ステップ37）。動作開始のトリガーがあれば、動作状態となる（ステップ36）。以下、ステップ34～37を繰り返し動作する。

【0009】図4は、本発明の他の実施例を示す受信動作の一部フローチャートである。図3の受信動作のフローのうち、受信原稿があることを知らせる動作（ステップ33）と、原稿があることを知らせる動作を止める処理（ステップ35）の詳細を図4に示す。受信原稿があることを知らせる動作（ステップ33）として、電話番号が一致した短縮・ワンタッチキーのLEDを点灯させる処理を行う（ステップ331）。また、受信原稿があることを知らせる動作を止める処理（ステップ35）として、点灯している押下された短縮・ワンタッチキーのLED点灯を消灯させる処理を行う（ステップ351）。図5は、図4の受信原稿があることを知らせる動作のさらに詳細を示すフローチャートである。受信原稿があることを知らせる動作（ステップ33）として、まず電話番号が一致した短縮・ワンタッチキーのLEDが既に点灯しているかを確認し（ステップ330）、点灯していない場合には、連続点灯させる処理を行う（ステップ331）。また、点灯していた場合には、その短縮・ワンタッチキーの受信が以前に何回あったかをメモリ2から読み出し（ステップ334）、その受信回数に1を加算してメモリ2に書き込み（ステップ335）、加算後の回数分だけその短縮・ワンタッチキーのLEDを点滅点灯させる（ステップ336）。これにより、同一受信先の受信原稿が何通受信されているかを容易に確認できるので、受信原稿の整理が容易となる。

【0010】図6は、図4の受信原稿があることを知らせる動作を止める動作の詳細なフローチャートである。まず、押下された短縮・ワンタッチキーのLEDが点滅点灯しているか否かを確認し（ステップ350）、点滅点灯ではなく、連続点灯であった場合には、その押下された短縮・ワンタッチキーのLEDを消灯させる（ステップ351）。一方、点滅点灯であった場合には、その

短縮・ワンタッチキーの受信が何回あったかをメモリ2から読み出し(ステップ354)、その受信回数から1だけ減算して、再度メモリ2に書き込む(ステップ355)。そして、減算後の数が1の場合には(ステップ356)、その短縮・ワンタッチキーのLEDを連続点灯させる(ステップ358)。一方、減算後の数が2以上の場合には(ステップ356)、その短縮・ワンタッチキーのLEDをその数分点滅点灯させる(ステップ357)。これにより、ファクシミリ装置の設置場所に行って、1枚ずつ手にとって見なくても、受信原稿が何通受信されているかをその点滅点灯回数で確認できるので、受信原稿を整理し易くなる。

【0011】図7は、図3の受信原稿があることを知らせる動作の他の実施例を示すフローチャートである。受信原稿があることを知らせる動作(ステップ33)として、電話番号が一致した短縮・ワンタッチキーのLEDを点灯させ(ステップ331)、その短縮・ワンタッチキーに対応して登録されている音声データをメモリ2から読み出す(ステップ334)。そして、その音声データを音声発生部11からスピーカ13を使用して繰り返し発音させる処理を行う(ステップ337)。図8は、図3の受信原稿があることを知らせる動作の他の実施例を示すフローチャートである。受信原稿があることを知らせる動作を止める処理(ステップ35)として、点灯している押下された短縮・ワンタッチキーのLEDを消灯させ(ステップ351)、押下された短縮・ワンタッチキーに対応した音声の発音の発音を止める処理を行う(ステップ352)。

【0012】図9は、図3の受信原稿があることを知らせる動作のさらに他の実施例を示すフローチャートである。受信原稿があることを知らせる動作(ステップ33)として、電話番号が一致した短縮・ワンタッチキーのLEDを点灯させ(ステップ331)、その短縮・ワンタッチキーに対応して登録されている音声データをメモリ2から読み出す(ステップ334)。また、その短縮・ワンタッチキーに対応して登録されている連絡先電話番号をメモリ2から読み出す(ステップ338)。そして、網制御部6を制御して、その連絡先電話番号を発呼し(ステップ339)、呼接続後に音声データを音声発生部11で再生し、網制御部6、通信回線10を介して着呼側に伝達する処理を行う(ステップ340)。図10は、図3の受信原稿があることを知らせる動作を止める動作のさらに他の実施例を示すフローチャートである。受信原稿があることを知らせる動作を止める処理(ステップ35)として、点灯している押下された短縮・ワンタッチキーのLEDを消灯させ(ステップ351)、連絡先に回線10を用いて発呼して音声で受信を知らせる動作の繰り返しを止める(ステップ353)。

【0013】図11は、本発明のファクシミリ送受信のシーケンスチャートである。まず、受信側(RX)から

CED (Called Station Identification被呼設備表示)、CSI (Called Signal Identification被呼者識別)、DIS (Digital Identical Signal機能識別)を送信すると、送信側(TX)からTSI (Transmitted Signal Identification送信側識別)、DCS (Digital Command Setモード設定命令)、TCF (Training Check Figure Recieveトレーニングチェック)、を送信する。これにより、受信側(RX)は、CFR (Configuration figure Recieve受信準備完了)を返送する。送信側(TX)からPIX (画情報送信命令)、EOP (End of Picture通信終了)を送信することにより、受信側(RX)からはMCF (Message Confirmationメッセージ受信完了)を返送する。送信側(TX)ではDCN (呼解除)を行う。本実施例においては、送信側(TX)から送られた通信プロトコル中のTSI信号から送信相手側の電話番号を読み出し、短縮・ワンタッチキーの登録されている電話番号のいずれかと一致するか否かを調べて、一致する場合には、短縮・ワンタッチキーのLED点灯部を点灯させる。勿論、ポーリング送信の場合には、受信側(RX)から送られた通信プロトコル中のCSI信号から送信相手側の電話番号を読み出して、短縮・ワンタッチキーの登録されている電話番号のいずれかと一致するか否かを調べ、一致するときにその点灯部を点灯させる。

【0014】図12に示すように、複数回の自動受信を行うことにより、受信原稿トレイ19上に受信原稿が送信宛先・受信単位の違いにかかわらず、積み重なった状態であるが、本実施例においては、(イ)受信した電話番号の短縮・ワンタッチキーのLEDが点灯しているので、それを基にして受信単位毎に受信原稿を容易に整理することができる。しかも、LEDの点灯により確認ができるので、整理ミスが少ない。また、(ロ)受信待ちをしている受信原稿が受信できたか否かは、操作部を見れば確認できるので、従来のように、ファクシミリ装置の設置場所まで受取人が行って、受信原稿全部を手にとって1枚ずつ受信原稿を見て確認する必要があるのが、便理であり、手間もかからない。また、(ハ)短縮・ワンタッチキーLEDの点滅点灯回数により、同一受信先の受信原稿が何通受信されているかを確認できるので、さらに受信原稿を整理することが容易になり、整理ミスも少なくなる。また、(ニ)ファクシミリ装置のスピーカから発音される音声聞き取れる位置にいれば、受信待ちをしている受信原稿が受信できたか否かを容易に確認できるので、従来のようにファクシミリ装置の設置場所に行き、受信原稿全部を手にとって1枚1枚見て確認する必要がなく、手間がかからなくなり、他の仕事を継続することができる。さらに、(ホ)短縮・ワンタッチキーに対応して登録されている連絡先電話番号の電話がある場所にいれば、受信待ちをしている受信原稿が受信されたか否かを容易に確認することが

できるので、ファクシミリ装置の設置場所に行って受信原稿の全部を手にとって1枚ずつ見て確認する必要がなく、受信待ちの手間がかからない。

【0015】

【発明の効果】以上説明したように、本発明によれば、短縮・ワンタッチキーのLEDの点灯、その点滅点灯回数、音声による受信通知、あるいは受信通知の連絡先電話呼出しにより、受信単位毎に受信原稿を容易に整理することができるとともに、受信待ち原稿が受信されたか否かを容易に確認できるので、極めて便利であり、受信待ちの手間がかからない。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例を示すファクシミリ装置のブロック構成図である。

【図2】図1における操作部の前面を示す図である。

【図3】図1における受信順序の動作フローチャートである。

【図4】図3における受信原稿があることを通知する動作およびその通知の動作を停止させる動作の詳細フローチャートである。

【図5】図3における受信原稿があることを通知する動作の他の実施例を示す詳細動作フローチャートである。

【図6】図3における受信原稿があることを通知する動作を止める動作の他の実施例を示す動作フローチャートである。

【図7】図3における受信原稿があることを通知する動作のさらに他の実施例を示す動作フローチャートである。

【図8】図3における受信原稿があることを通知する動作を止める動作のさらに他の実施例を示す動作フローチャートである。

【図9】図3における受信原稿があることを通知する動

作のさらに別の実施例を示す動作フローチャートである。

【図10】図3における受信原稿があることを通知する動作を止める動作のさらに別の実施例を示す動作フローチャートである。

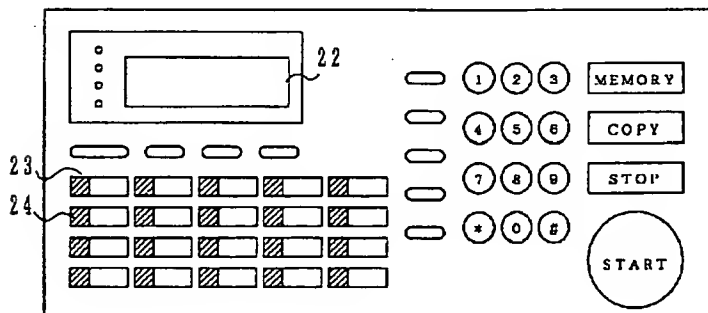
【図11】本発明のファクシミリ送受信の伝送手順を示すシーケンスチャートである。

【図12】従来におけるファクシミリ装置の内部側断面図である。

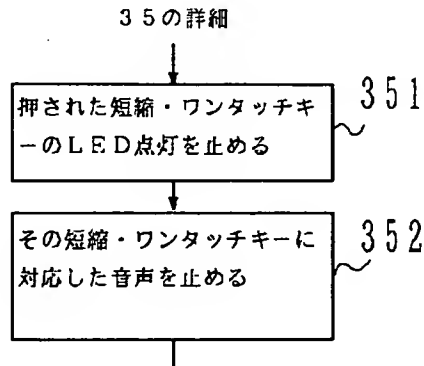
【符号の説明】

- 1 制御部
- 2 メモリー
- 3 スキャナー
- 4 プロッター
- 5 操作部
- 6 網制御部
- 7 モデム
- 8 符号化復号化部
- 9 画像処理部
- 10 回線
- 11 音声発声部
- 12 バス
- 13 スピーカ
- 15 送信原稿
- 16 CCD
- 17 サーマルヘッド
- 18 カッター
- 19 受信原稿
- 20 受信原稿トレイ
- 22 液晶パネル
- 23 短縮キー・ワンタッチキー
- 24 LED点灯部

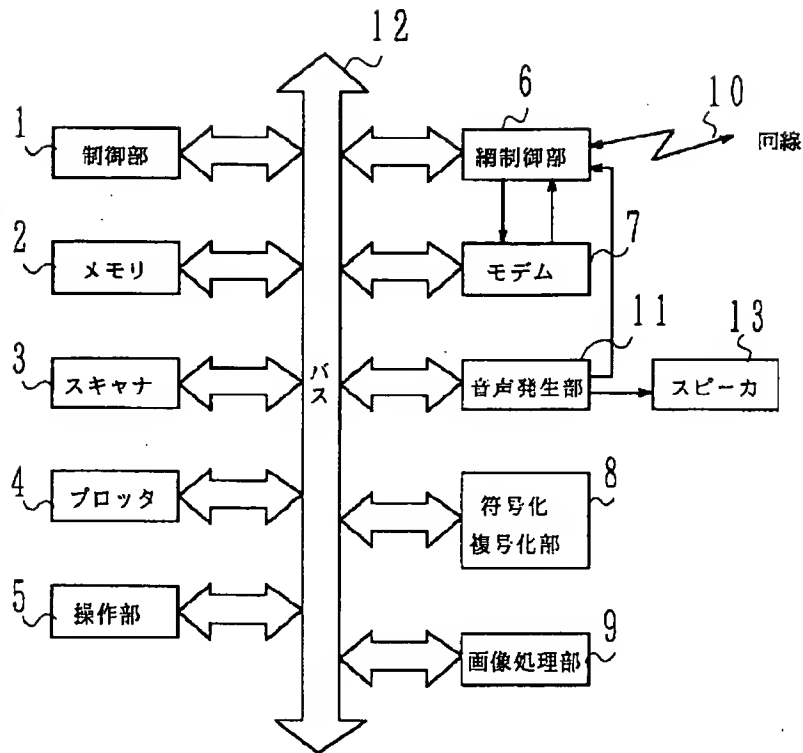
【図2】



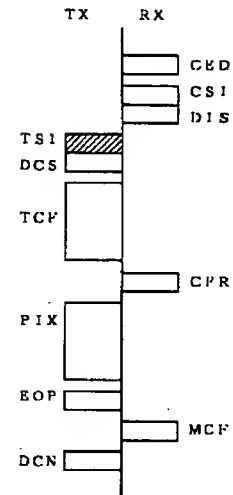
【図8】



【図1】

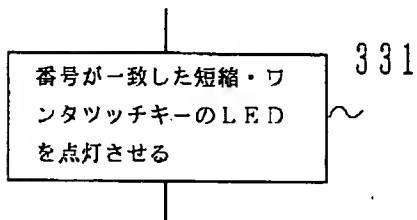


【図11】



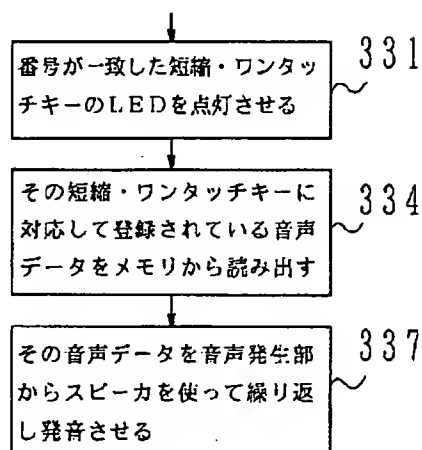
【図4】

33の詳細

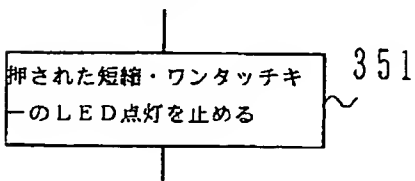


【図7】

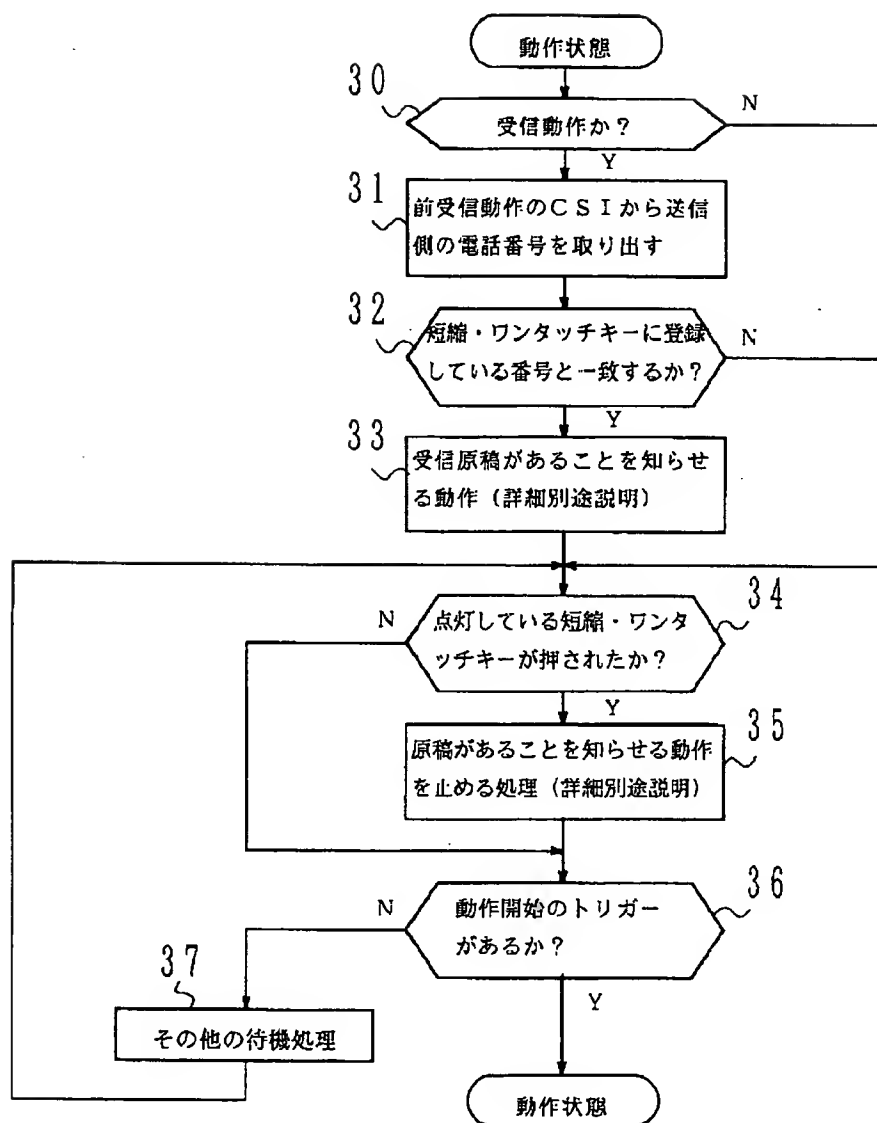
33の詳細



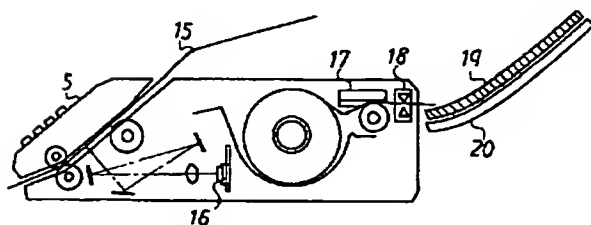
35の詳細



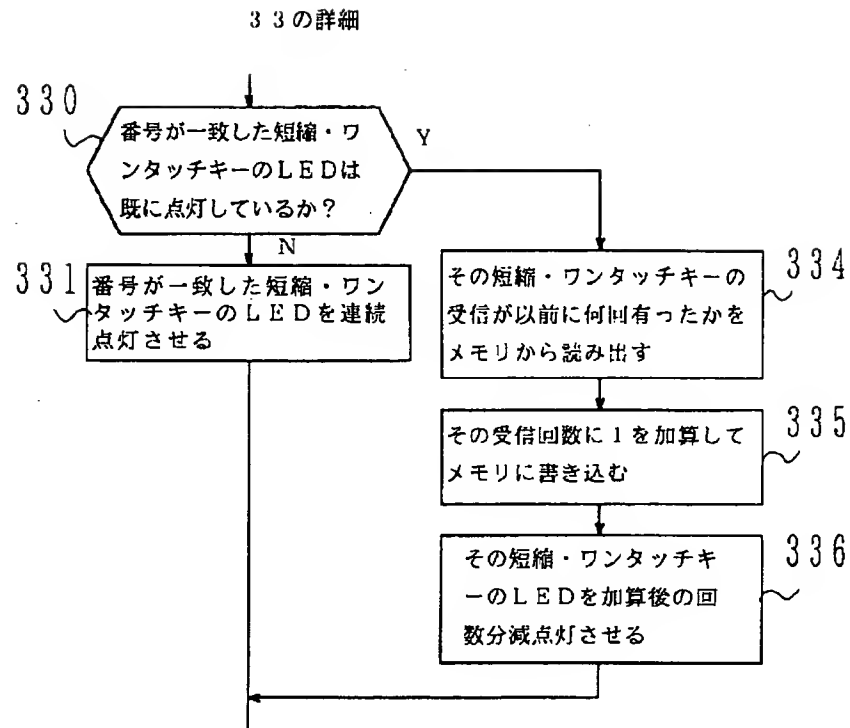
【図3】



【図12】

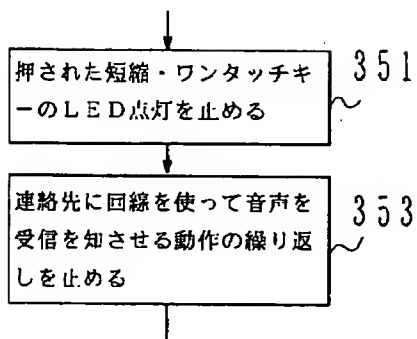


【図5】

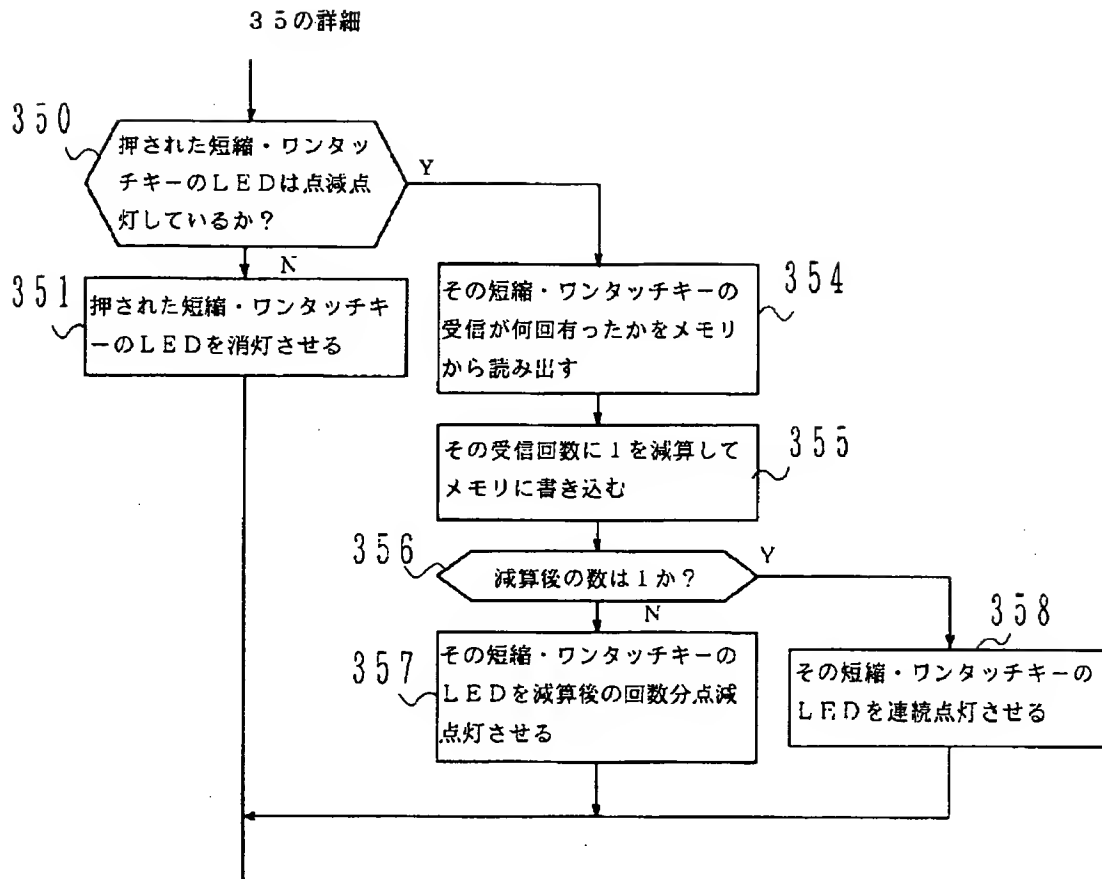


【図10】

35の詳細

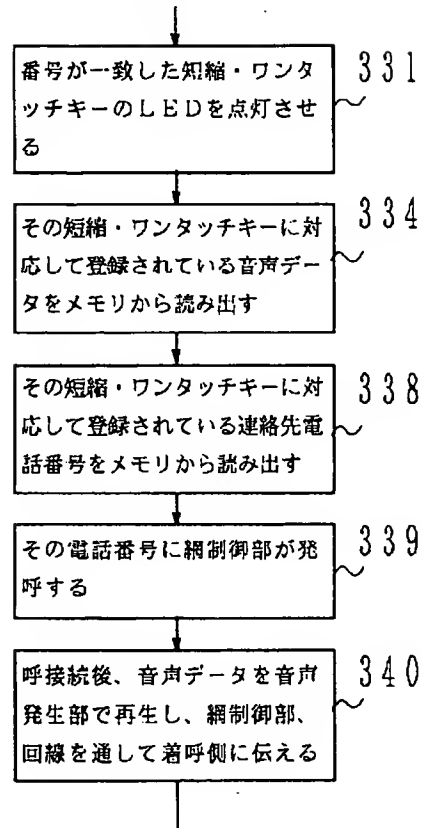


【図6】



【図9】

33の詳細



フロントページの続き

(51)Int. Cl. ⁵

H 0 4 N 1/32

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

C 2109-5C